東京　明治十七年二月廿八日　木曜日　第五百九十五號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官達第二十一號　宮内省府縣

海軍省中ニ工手監護ヲ置キ等級左表ノ通相定候條此旨相達候事

明治十七年二月二十七日　太政大臣三條實美

工手監護等級表

等	外			
一等工手	二等工手	三等工手	工手補	
一等監護	二等監護	三等監護	四等監護	

○海軍省雇丙第三十七號　海軍一般

徴兵年齢ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケタルトキハ右處分中徴集ヲ猶豫致スベキト心得ヘシ此旨相達候事

明治十七年二月二十二日　太政大臣三條實美

○東京府告示乙第二十八號

農政農業ニ關スル古文書及ビ書記錄等總テ農書ニ參考スヘキ書類取調之儀客歲十二月當廳乙第百廿八號及ビ本年乙第廿號ヲ以テ告示及ビ置候處右差出期限ハ來ル四月三十日迄ト相心得ヘシ此旨告示候事

明治十七年二月廿七日　東京府知事芳川顯正

叙任賞勳

○明治十六年十一月一日

叙勳六等瑞寶光旭日章　准陸軍中尉從七位勳七等　深味貞茂

○明治十七年二月廿三日

外務大輔從四位勳二等　吉田　清成

外務少輔正五位勳二等　鍾田　三郎

普魯西國皇帝陛下ヨリ勳與シタル、グランヤ、グロース、エサベラ、カトレーキ勳章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許候事

○明治十七年二月廿五日

外務書記官正七位勳六等　田中建三郎

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル、コンマンダトレ、デル、オルヂネ、デーラ、コロンナ、デ、タリヤ勳章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許候事

○明治十七年二月廿六日

補內務省三等出仕　岩手縣令正五位勳三等　島　惟精

任岩手縣令　內務大書記官從五位勳四等　石井省一郎

兼任內務權少書記官　太政官權少書記官正七位　荒川　邦寧

補宮內省七等出仕　判事正七位勳六等　黑岩　直方

時事新報

外國ノ資本ヲ借來リテ鐵道ヲ興シ以テ內國ノ富源ヲ深クスベシ

我日本國內ニ興スベキ事業ノ多クシテコレニ供スベキ勢力モ亦多シト雖ドモコレニ伴フ資本ノ不足ナルガタメニ未ダ以テ國ノ富源ヲ深クスルヿ能ハザルハ我輩ガ世ノ有志者ト共ニ常ニ遺憾トスル所ナリ其興スベキ事業ヲ列擧スレバ農ニ工ニ商ニ因ヨリ其數ヲ盡スヿ能ハズト雖ドモ目下日本ノ景狀ヲ察スルニ差當リ鐵道ヲ興スヨリ急ナルモノハ蓋シ甚タ稀ナルベシ抑モ鐵道ノ大切ナルハ此營業ノタメニ下シタル幾千万圓ノ資本金ニ年々好利ヲ生ゼシムベキガタメノミニアラズ此好利ヲ生ズルト同時ニ鐵道ノ便利以テ全國ノ人事ヲ容易ニ非常ノ敏捷ヲ爲サシムルノ益アルガタメナリ故ニ今日本ノ富源ヲ深クセントスルニ先ヅ着手セザルベカラザルモノハ鐵道布設ヲ以テ第一トスルナリ

今日本國內皇畿ノ地方ニ鐵道ヲ布設スルノ資金ハ我輩先ヅ之ヲ外國ニ借ラントヲ欲スルナリ何トナレハ內外金利ノ割合ヲ對照スルニ外國ノ方非常ニ廉ニシテコレヲ得ルヿ易ク此廉利ノ金ヲ以テ鐵道ヲ興シ又コレヲ維持スルノ利ハ內國ノ資金ヲ使用スルニ比シテ非常ニ大ナルモノアレバナリ今回我政府ガ中山道鐵道ヲ布設スルニ其要スル所ノ資金大略千八百万圓コレヲ外國ニ借ラズシテ內國ニ募リ當テ金利ノ不廉ヲ厭ハザルガ如キハ我輩其理由ノ何邊ニ存スルカヲ知ルニ苦シムナリ近來全國市場ノ不景氣ハ世人ノ熟知スル所ニシテ其影響ハ公債證書ノ價格ニ現レ一兩年以前ハ七十圓ニテモ買入ヲ見出スヿ難カリシ公債ガ昨今ノ相場ニテハ九十圓ニテモ賣人ノ方ニテ手離サズト云フ程ノ景況トナリシハ實ニ非常ノ事ナリト云ハザルヲ得ズ公債ヲ買入ルヽノ地位ニ立ツ人々ノタメニハ隨分都合ヨキ時節ナリト雖ドモコレヲ賣出ス者ノタメニハ恭謹至極ノ時節ナリトナルヿナシ此都合ヨキ時節ニ當テヲ我政府ハ年七分利付ノ鉄道公債ヲ額面百圓ニ付九十圓ニテ賣出シタリ若シ都合ヨカラザル時節ニ際セバ八十五圓乃至八十圓ニテ賣出スヿアラザレバ或ハ買人ヲ見出スヿ苦シムヿモアラン九十圓ニ對スル七分ノ利足ハ百圓ニ付七分七厘ノ割合ニシテ日本內國ニ在レバ格外ノ低利ナレドモ外國ノ金融市上ニ於テハ決シテ廉ナルモノト云フベカラズ今若シ此公債ヲ英國倫敦ニテ募集スルトセバ日本政府ノ信用ヲ以テ利足ハ年五分賣出シ直段ハ九十五圓ニテ三五千万ノ金ヲ得ルニ格別ノ困難ヲ感セザルベシ好シヤ五分ノ廉利ニテハ聊カ困難ナル所アリトスルモコレヲ增シテ五分半又ハ六分ニスルヿアラバ決シテ應募者ノ少ナキヲ憂ヘズ或ハ却テ其多キニ苦シムヿモアラン年五分利付九十五圓ノ賣出シナレバ百圓ニ付五分三厘ノ割合ニシテ年六分利付ナレバ六分三厘ノ割合ナリコレヲ內國債ノ七分七厘ニ比較スレバ年一分四厘乃至二分四厘ノ差違ヲ見ルベシ二千万圓ノ元金ナレバ內外利足ノ差違一年ニ三十乃至五十万圓ナリ內國債ナレバ每年三五十万圓ノ費用ヲ加ヘ外國債ナレハコレヲ省ク其利害得失多辨ヲ俟タズシテ甚タ明白ナルベシ是我輩ガ中山道鐵道資金ヲ得ルニ外國債ニ由ラズシテ內國債ニ由ルノ理由ヲ知ルニ苦シム所以ナリ殊ニ今回ノ中山道鐵道公債ハ其所持ヲ內外人一般ニ許スノ法ニシテ外國ニ於テ證書ヲ亡失スル等ノ場合ニハ其地ノ日本公使館又ハ領事館ヲ經テ我大藏卿ニ屆出テシムルノ用意サヘアルモノナレバ外國人ニ金ヲ借ルヿヲ禁斷シタルニアラサルノ意ハ甚タ明白ニ窺ヒ見ルベシ果シテ然ラバコレヲ內國ニ募リテ年七分利付九十圓ニ賣出スヿヲ爲サズコレヲ外國ニ募リテ年五六分利付九十五圓ニ賣出シ每年三五十万圓ノ費用ヲ省クニ於テ別ニ大ナル益實ハナカル可キ學覺スルニ中山道鐵道公債ヲ募シテ外國人ニモ所持ヲ許スハ其實外債ニ相違ナシト雖ドモコレヲ日本國內ニ募シタルガ故ニ云ハヾ外國ノ金主ヲ自國ニ引付ケテ金ヲ儲ケスルニ異ナラズ左レドモ等シク他人ニ金ヲ借リテ利足ヲ拂フニ其借用ノ場所ヲ內ニスルモ外ニスルモ實際ニ何事ヲモ輕重スルニ足ラザルガ如シ內外ハ唯地理ノ異同ノミ此異同サヘ心ニ關セザレバ爰ニ三五十万圓ノ利益アリト云フ我輩ハ率ロ利ヲ取ラント欲スルモノナレドモ鐵道公債ノ事ハ既ニ著シテ其募集モ緒ニ就キタルヿナレバ是レハ是レトシテ尙ホコノ他ニ公債ヲ募ルヿアラバ今後ハ斷然我ヨリ外國ニ進テ低利ノ資金ヲ借用センヿ我輩ノ望ミスル所ナリ

外國ノ資本ヲ輸入スルハ獨リ國債ノ法ニノミ由ルヲ要セズ私立ノ事業ヲ興シテ私ニ外國ノ資本ヲ使用スルヿ亦甚ダ容易ナリ今政府ガ中山道鐵道公債ヲ外國人ニ所持セシムルノ精神ヲ擴メテ外國人ヲシテ日本ノ私立鐵道會社ノ株主タルヲ許シ又鐵道會社ノ借用券ヲ外國人ニ賣渡スヲモ許スヿアランニハ我日本ノ有志者ハ歐米ノ資本家ト力ヲ協セ大ニ計畫スル所アリテ五年乃至十年ノ後ヲ期シ中山道鐵道ノ官設ニ由ヲ成就スルヲ待タズ即時其工事ニ着手シテ兩三年ヲ出テズ東京大坂ノ間ニ鉄道ヲ聯絡シ了リ一蓋若シクハ一夜ノ間ニ兩都ノ間ヲ相往來シ得ルノ世界ニ變ズルナラン此事獨リ中山道ノ鐵道ニ限リテ然ルニアラズ東海道ノ鉄道ナリ中國ノ鉄道ナリ九州ナリ越後ナリ又越前加賀越中ナリ苟クモ資本ヲ下シテ其利ヲ收メ得ル限リノ鐵道ハ政府ノ沙汰ヲ待タズシテ獨リ自カラ興ルヿナラン鉄道會社ニシテ外國ノ資本ヲ得テ獨リ自カラ興ルヿアラバコレト同一ノ手續ヲ以テ瀛船會社モ興ラン鑛山會社モ興ラン決シテ彼レモ此レモ官府ノ手ヲ煩ハシテ始メテ國民ノ便用ヲ翹スルヿヲ得ルノ不自由ナシシテ可ナルベシ故ニ外國人ノ金ヲ借ルヿヲ禁斷セザルノ精神アル以上ハ決シテ國ノ富源ヲ深クスルノ工風ニ乏シカラズト信ズルナリ

電報

○二月二十四日龍駒發　四千三百の英軍はトリンキタットに上陸して進擊の用意と張れり又騎兵を發して敵軍を斥候せしに其勢一万餘なるとを見出したり

雜報

○青柳川威仁親王　同親王には保養の爲め昨日出發にて豆州熱海溫泉へ御のせられふりと

○山階宮　同宮ゝの英國へ會學せらるゝ事は書て本紙上に記揭したりしが愈來月二十日頃の便船にて八田海軍少佐を隨へ英國へ向け出發あらせらるゝ由

○故高位小路博房君葬儀　嘗て前號に記載せし如く同君の葬儀は昨日午后一時有樂町一丁目の邸を出棺し神官二人騎馬にて前驅し次に儀仗兵一大隊、次に白旗十旗、榊、榁、神官數名騎馬、次に造花數藍、銘旗、松、次に喪主高位小路通房、副博直、高位小路實丸の三君徒步其後に從ひ次に親族爲參者和、儀仗兵一大隊ゐて見送りの人をにの御大寺宮內卿、鍋島元